

決算審査特別委員会 ② (商工労働部)

【商工労働部】

商工労働部の事務概要

- ・ 商業及び工業に関すること
- ・ 新産業の創出に関すること
- ・ 観光及びコンベンションの振興に関すること
- ・ 計量及び高圧ガス等の保安
- ・ 労働に関すること



かずさ DNA 研究所について

- ①補助金交付額 (21年度と今までの累計) ?
- ②自主財源 (21年度と今までの累計) ?
- ③大規模改修計画と費用 ?

かずさ DNA 研究所とは、かずさアカデミアパーク内に平成3年10月に千葉県の支援のもとに財団法人として設立され、植物やヒトのDNAに刻まれた「生命の設計図」である遺伝情報を解読し、それに基づいて、細胞の中でさまざまな働きをしている遺伝子についての研究を行っています。

(かずさ DNA 研究所 HP)

川本さんの質問項目

1. かずさアカデミアパーク構想
 - (1) かずさDNA研究所
 - (2) かずさアカデミアパーク
2. 幕張新都心構想
 - (1) 幕張メッセ
 - (2) 幕張新都心への進出企業
3. 東葛テクノプラザ
4. 観光施策

1 補助金

21年度は、約13億6千万円
累計は、16年間で約277億円

2 自主財源

21年度は、約2億円3千万円
累計は、16年間で約33億円

3 平成6年10月開所で16年が経過。

今後、施設改修計画を作って、計画的に進めていきたい。(土屋産業振興課長)

木更津市の統計

	平成3年度	平成21年度
工業就業数	173	91
工業従業者数	4,768名	3,531名
商業事業所	1,808	(19年度) 1,306
商業従業員数	12,250名	(19年度) 9,704名
商品販売額	3,892億円	(19年度) 2,917億円

*かずさアカデミアパーク構想そのものが思った効果が出ていないと結論として言えると思うがいかがか？

当初、立地がなかなか進まず、経済効果がなかなか地域に及ぼせない時期があったが、現在多くの企業が立地し、東京機械製作所の建設も進められている。木更津の人口は、増加に転じている。(石渡企業立地課長)



木更津市の人口は、平成8年から22年の14年間で約4000人の増加に留まっていることを川本さんは指摘しました。

幕張メッセ

- ①千葉県の繰出金と千葉市の負担金？
- ②利用状況と県の繰出金と市の負担金を0にするための利用率は？
- ③今後の大規模改修計画とその費用と財源？

① 県の繰出金：21年度 約7億円
累計 約216億円

市の負担金：21年度約6億75百万円
累計約117億5千万円

② 1603ホールの約4割の利用
繰出金・負担金を0にするには50%増が必要

③ 20年が経過し、経年変化が見られ、改修が必要。約40~50億円程度の費用を想定。改修費用の財源は、施設からの使用料収入を当て、19年度から順次実施。3~7億円の予算計上。(麻生経済政策課長)

東葛テクノプラザ

- ① 21年度の事業収入と支出、県の繰出し金の累計？
- ② 退出(卒業)企業数、県内で事業活動をしている企業数、具体的な成果？
- ③ 評価と課題？

東葛テクノプラザとは、県内企業の研究開発等を支援するとともに、研究開発等を行う者の創業を支援することにより、新たな事業分野の開拓を図る。研究開発等を行う中小企業等に対し、賃貸型の研究開発室や機器等を提供したり、試験の依頼を受けている。
(東葛テクノプラザHPなど)

- ① 収入：約1億6千万円
経費：約2億5千万円
差額：▲約9千万円(一般財源より充当)
県繰出金合計：約9億6千万円
- ② 入居企業総数：112社
卒業数：69社(県内で事業活動中：51社)
〔成果〕
 - ・県内での設備投資企業10社
 - ・上場企業：3社
 - ・「千葉ものづくり認定製品」16品(62品中)
- ③ 〔評価〕
 - ・卒業企業62社中51社が県内で活動中
 - ・機器利用及び機器貸付：約2万件
 - ・産業連携活動、研究開発企業のスタート支援〔課題〕
 - ・建物の保全改修
 - ・機器の更新
 - ・非常に早い産業構造の変化や企業ニーズに的確に対応した支援ができるよう努力
(土屋産業振興課長)

かずさアカデミアパークのDNA研究所、幕張メッセ、幕張新都心、東葛テクノプラザを見ると、**地元企業の育成や開発を基本にすえた地域振興施策**を(中略)根本的に見直すべきであると思います。

費やした費用と効果を考えると、一般県民の目から見ても効果があったとは思えません。



観光政策

- ① 観光立県千葉推進計画の進捗状況
- ② 南房総地域(君津・夷隅・安房)の観光入込み客数と日帰り客の推移

観光産業については、アクアラインができたというが、逆に日帰り客が増えたということで**ストロー効果**が、スカイアクセス開業による成田の宿泊客の動向も含めて今後出てくるのではないかと。道路を造ることは2次的なことであり、本当の地域の魅力がこれから試されてくるということ**を指摘**しておきます。

①	H24 目標	H21 年度実績	達成率
観光入込客数	1億6千万人	1億5,216万人	95%
宿泊客数	2千万人	1,575万人	78.7%
外国人来訪者	200万人	172万人	86.2%

②	H21 年度→H22 年度
観光入込客数	+7.2%
日帰り客数	+8.4%
宿泊客数	▲2.3%
県全体宿泊客数	▲3.4%

近距離あるいは短時間でいける魅力ある場所があれば、そちらを利用するのは当然のことだと思います。便利に行ける所より、「行きたい」という魅力ある場所にするのが、少々時間がかかっても行こうと思え、それに伴って宿泊客も増えると思います。県庁内に、「アクアラインで行こう」という旗が立っています。「来てもらおう」のではないのかな？

ストロー効果とは：経済的格差の大きい地域間(大都市と地方)で、高速道路など交通機関が整備されると、経済力の弱い地域が強い地域の経済圏に取り込まれ、人口・企業・資本などが強い地域に吸い寄せられること。

